

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／演習 A10 (Seminars A10)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ドイツ・ルター派のコラールと J. S. バッハの編曲技法—声楽作品(カンタータ)、オルガン編曲からの考察		
担当者名 (Instructor)	米沢 陽子(YONEZAWA YOKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CHS3813	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	大学院科目 NH213「キリスト教音楽研究2」と併置 チャペル会館2F マグノリアルーム		

授業の目標(Course Objectives)

ルター派のコラールの歌詞内容を理解し、バッハがカンタータや受難曲、オルガン作品のなかで歌詞の内容をどのように音として描こうとしたかを、楽曲分析を通して説明することができる。

We will understand the lyrics of Lutheran chorales. By analyzing these songs, we will be able to explain how Bach expressed these lyrics using sound with his cantata and Passion music and organ pieces.

授業の内容(Course Contents)

バッハのオルガン・コラール作品を弾く際、オルガニストは解釈の手掛かりをカンタータとコラールの歌詞に求める。バッハのカンタータや受難曲がルター派のコラールを基にして作曲されていることは周知のとおりである。この授業では、同じコラールに基づくカンタータとオルガン編曲を並べて取り上げ、バッハが共通の「素材」を用いてどのような手法で音楽を作り上げていったかを楽曲分析を通して考察する。基本的に講義形式で進めていくが、いくつかのテーマについては受講生に口頭発表を課す予定である。また必要に応じて演奏実践も取り入れる。

An organist seeks hints on how to interpret the cantata and chorale from its lyrics when playing Bach's organ chorales. As you know, Bach's cantatas and Passion music were composed based on Lutheran chorales. In this course, we will take up cantatas and organ compositions based on the same chorale. We will examine with what method Bach used the same "material" to create music by musical analysis. The course will mostly consist of lectures, but I plan to have students give verbal presentations on several topics. In addition, we will also implement musical performances when necessary.

授業計画(Course Schedule)

1. ルター派のコラールと教会音楽家 J. S. バッハ
2. Christ lag in Todesbanden(1)コラール原曲
3. Christ lag in Todesbanden(2)カンタータ BWV4 (復活節第1主日)
4. Christ lag in Todesbanden(3)オルガン編曲 BWV 629 他
5. Ein feste Burg ist unser Gott(1)コラール原曲
6. Ein feste Burg ist unser Gott(2)カンタータ BWV 80 (宗教改革記念日)
7. Ein feste Burg ist unser Gott(3)オルガン編曲 BWV 720
8. Nun komm, der Heiden Heiland(1)コラール原曲
9. Nun komm, der Heiden Heiland(2)カンタータ BWV 62(待降節第1主日)
10. Nun komm, der Heiden Heiland(3)オルガン編曲 BWV599, 659, 660, 661
11. Wachet auf, ruft uns die Stimme (1)コラール原曲
12. Wachet auf, ruft uns die Stimme(2)カンタータ BWV140(三位一体後第27主日)
13. Wachet auf, ruft uns die Stimme(3)オルガン編曲 BWV645
14. まとめ — J. S. バッハが目指した音楽表現とは

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

上記授業で取り上げるコラールの歌詞(ドイツ語)を読み込み、旋律を頭に入れておくこと。その他、必要に応じて別途指示する。予め配布したコラールの楽譜を譜読みしてくること。また必要に応じて楽曲分析の課題・発表を課すこともある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 口頭発表とその準備(30%) / 授業への参加度(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 教会音楽アカデミー、2021年、『礼拝・音楽研究』第70号、東京基督教大学
上記の他、随時配布する。

参考文献 (Readings)

1. マルティン・ゲック、2001 年、『ヨハン・ゼバスティアン・バッハ』、東京書籍 (ISBN:4-487-79719-5)
 2. 礒山雅、樋口隆一[ほか]、1996-99 年、『教会カンタータ』(バッハ全集第 1~5 巻)、小学館 (ISBN:4096120014)
- その他、授業中に適宜紹介する。また『バッハ全集』(小学館)の CD および解説書は重要な資料となるので、受講生は各自の関心に沿って CD を聴き、解説を読み、バッハの音楽への理解を深めることが望ましい。(図書館所蔵)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

授業で取り上げるコラール(ドイツ語)はクラス全員で歌唱するので、基礎的な読譜力を身につけている学生の受講を歓迎する。またカンタータ、オルガン編曲の回では録音資料、楽譜資料を用いて行う。個々の授業内容については受講生の人数や関心により多少の変更を加えることもある。

オルガン音楽を研究対象とする方は授業内での演奏に積極的に取り組んでもらいたい。

注意事項 (Notice)